

## 2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年2月1日

上場会社名 相鉄ホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9003 URL http://www.sotetsu.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 滝澤 秀之  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営戦略室部長 (氏名) 廣瀬 佳恵 TEL 045-319-2043  
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第3四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	168,018	△17.8	△820	—	△2,197	—	△3,418	—
2020年3月期第3四半期	204,398	3.6	24,894	△7.6	22,992	△9.9	14,754	△10.1

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 △3,322百万円 ( —%) 2020年3月期第3四半期 14,433百万円 ( △4.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	△34.89	—
2020年3月期第3四半期	150.58	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	636,037	146,257	23.0
2020年3月期	620,929	152,031	24.5

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 146,170百万円 2020年3月期 151,942百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
2021年3月期	—	0.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無  
 2. 2021年3月期の期末配当につきましては、現時点で未定としております。

### 3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	225,300	△15.0	△4,400	—	△6,400	—	△7,000	—	△71.44

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有  
 2. 連結業績予想の修正については、本日（2021年2月1日）公表いたしました「2021年3月期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	98,145,499株	2020年3月期	98,145,499株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	165,570株	2020年3月期	164,934株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	97,980,295株	2020年3月期3Q	97,982,001株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記の業績予想に関する事項につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(追加情報) .....	8
(四半期連結損益計算書関係) .....	8
(セグメント情報) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当社グループの当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、流通業、その他は増収・増益となったものの、ホテル業や運輸業の減収が大きく、減収・営業損失となりました。

営業収益は1,680億1千8百万円（前年同期比17.8%減）となり、営業損失は8億2千万円（前年同期は営業利益248億9千4百万円）、経常損失は21億9千7百万円（前年同期は経常利益229億9千2百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は34億1千8百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益147億5千4百万円）を計上するにいたりました。

各セグメント別の状況は以下のとおりであります。

## a. 運輸業

鉄道業におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出自粛や企業のテレワークの増加等の影響により、輸送人員が大幅に減少する厳しい事業環境となりました。このような事業環境のもと、東急線との相互直通運転計画については、将来の成長に向けた重要プロジェクトとして鋭意推進したほか、「デザインブランドアッププロジェクト」による車両及び駅舎のリニューアルを実施する等、沿線の魅力及び利便性の向上に努めました。

また、新型コロナウイルス感染症への対策といたしまして、お客様と従業員の安全を最優先に、駅係員及び乗務員のマスク着用、車内換気・消毒等を徹底し、引き続き感染拡大防止に努めたほか、ホームドアの全駅整備に向けた準備工事並びに天王町駅・星川駅の駅舎改良工事等、安全・安心のための取り組みを推進いたしました。そのほかにも、2019年11月に開業した相鉄・JR直通線の開業1周年を記念し、「相鉄・JR直通線開業1周年記念スタンプラリー」の開催や、記念グッズ等の販売を行いました。

バス業におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い利用者が大幅に減少し、一部のバス路線で運休や減便を余儀なくされる厳しい事業環境となりましたが、運行に際しては、運転士のマスク着用及び車内換気・消毒の徹底や、車内の抗菌施工を実施する等、地域生活を支える交通インフラとして、お客様に安心してご利用いただけるよう感染拡大防止に努めました。また、安全性を高めたASV（先進安全自動車）仕様の高速バス2両、環境への一層の配慮及び燃料費等のトータルコストを低減できるハイブリッドバスを含むバス7両を導入いたしました。さらに、将来に向けた取り組みとして、郊外部における交通ネットワークの維持及び人口減少に伴う労働力不足への対応を目指し、遠隔監視・遠隔操作による大型バスの自動運転の実証実験を実施いたしました。

以上の結果、運輸業全体の営業収益は228億3千2百万円（前年同期比25.1%減）、営業損失は20億3千万円（前年同期は営業利益62億4千9百万円）となりました。

## b. 流通業

スーパーマーケット業におきましては、鎌倉市の「そうてつローゼン鎌倉深沢店」の全面改装をはじめ、13店舗のリニューアルを実施し、高まる内食需要に合わせた店舗・売場の活性化に努め、客単価が大きく上昇いたしました。また、新型コロナウイルス感染症への対策としてアルコール消毒液やレジでの飛沫ガードの設置、従業員の健康チェック、マスク着用の徹底など、感染拡大防止に努めました。加えて、10月より交通系電子マネー「PASMO」（※その他の交通系電子マネー「Suica」等も利用可能）及び電子マネー「iD」による決済を全店に拡大し、接客時の接触機会の一層の軽減を図るとともに、利便性の向上に努めました。

その他流通業におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出自粛の影響により、お客様が減少する厳しい事業環境の中、地域の暮らしを支えるライフラインとして、お客様に安心してお買い物いただけるよう感染防止対策の徹底を図り、営業の継続に努めました。

以上の結果、流通業全体の営業収益は777億5千5百万円（前年同期比1.2%増）、営業利益は18億5千5百万円（前年同期比67.3%増）となりました。

## c. 不動産業

不動産分譲業におきましては、海老名市の「グレースシアタワーズ海老名」、藤沢市の「グレースシア藤沢鶴沼」、「グレースシア湘南辻堂」等の集合住宅並びに横浜市保土ヶ谷区の「グレースシアライフ横濱西谷」の戸建住宅を中心に、集合住宅及び戸建住宅264戸を分譲いたしました。

不動産賃貸業におきましては、緊急事態宣言期間中に行った一部商業施設の休業等により、テナント賃料の減免を行ったほか、外出自粛に伴うお客様の減少等により厳しい事業環境となりましたが、新たな販売スタイルであるフードデリバリーサービス「ジョイナスデリ」などを積極的に展開するとともに、ジョイナステラス二俣川では、消毒清掃チーム「ほっとCAST」を結成し、お客様が安心安全にご来館いただける環境づくりに努めてまいりました。

また、新たに東京都港区の「相鉄港海岸ビル」を取得し、事業基盤の拡充に努めました。そのほか「相鉄ジョイナス」では、高島屋横浜店の新たな地下食料品フロア「Foodies' Port2 (フーディーズポート2)」をオープンしたほか、「相鉄ライフ いずみ中央」では、相鉄いずみ野線いずみ中央駅近くの高架下スペースを活用し、小規模認可保育園を誘致する等、引き続き、沿線の活性化及び収益力の向上に努めました。

なお、引き続き横浜駅きた西口鶴屋地区における市街地再開発事業の事務局業務の受託並びに泉ゆめが丘地区における土地区画整理事業の業務の代行により、沿線の街づくりを推進いたしました。

以上の結果、不動産業全体の営業収益は509億6千3百万円（前年同期比9.1%減）、営業利益は101億9千5百万円（前年同期比22.6%減）となりました。

#### d. ホテル業

ホテル業におきましては、「横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ」において、第6期となる客室改装を実施いたしました。これにより、2016年度より開始した客室改装工事は全客室終了し、お客様により快適にお過ごしいただける環境を整えました。また、レストラン・バー施設は、新型コロナウイルス感染防止を目的とした新しい営業形態「New Normal Service」を導入し、厳格な衛生管理基準に則したおもてなしを提供してまいりました。さらに、after/withコロナの社会変化に対応した非接触/テイクアウト/オンライン等による商品提供などにより、集客力、収益力の向上に努めました。

宿泊特化型ホテルにおいては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い需要が激減していましたが、政府による「Go Toトラベル事業」の追い風もあり、9月以降、需要が大きく改善いたしました。感染拡大防止策の徹底を図り、非接触接客によるお客様の利便性の向上及び安全の確保を目指し、セルフチェックイン・チェックアウト端末の導入を推進したほか、新たに相鉄ホテルズ合計50施設に多言語AIサービス「チャットボット」を導入いたしました。また、テレワーク需要の増加に対応したデイユースプランやキャッシュレス決済限定の宿泊プランの販売にも積極的に取り組みました。さらに「相鉄フレッサイン 東京田町ANNEX」、「相鉄フレッサイン 神田大手町」、「THE POCKET HOTEL 京都烏丸五条」、「相鉄フレッサイン 横浜駅東口」の4店舗を開業し、引き続き事業基盤の拡大に努めました。

以上の結果、ホテル業全体の営業収益は97億5千5百万円（前年同期比71.7%減）、営業損失は119億8千4百万円（前年同期は営業利益34億7千9百万円）となりました。

#### e. その他

ビルメンテナンス業におきましては、ICT（情報通信技術）を活用した自動清掃ロボットの導入等による業務の効率化を推進するとともに、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を講じながら、良質かつ安定したサービスの提供に努めました。

その他の各社におきましても、業績の向上を図るべく、積極的な営業活動に努めました。

以上の結果、その他全体の営業収益は171億7千4百万円（前年同期比1.0%増）、営業利益は11億9千4百万円（前年同期比39.3%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産、負債、純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、現金及び預金の増加等により前連結会計年度末に比べて151億7百万円増加し、6,360億3千7百万円となりました。

負債は、有利子負債の増加等により208億8千1百万円増加し、4,897億7千9百万円となりました。なお、有利子負債の残高は、借入金・社債合わせまして3,568億8千6百万円となり、308億7千1百万円増加いたしました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上による利益剰余金の減少等により57億7千3百万円減少し、1,462億5千7百万円となりました。なお、自己資本比率は23.0%となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績等を踏まえ、通期の連結業績予想につきましては、2020年10月29日に公表しました数値から変更しております。

主にホテル業における増収により、営業収益は2,253億円（前回予想比1.8%増）、営業損失は44億円（前回予想より55億円の改善）、経常損失は64億円（前回予想より56億円の改善）、親会社株主に帰属する当期純損失は70億円（前回予想より40億円の改善）を見込んでおります。

詳細につきましては、本日（2021年2月1日）公表いたしました「2021年3月期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※業績予想につきましては、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	24,145	43,873
受取手形及び売掛金	9,793	9,650
たな卸資産	30,738	24,092
その他	8,788	10,273
貸倒引当金	△43	△43
流動資産合計	73,422	87,847
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	191,493	185,457
機械装置及び運搬具(純額)	21,445	26,509
土地	248,287	250,336
使用権資産(純額)	14,582	13,397
建設仮勘定	15,606	16,652
その他(純額)	8,087	7,453
有形固定資産合計	499,502	499,808
無形固定資産		
のれん	1,704	1,530
借地権	3,514	3,514
その他	5,593	4,954
無形固定資産合計	10,812	9,999
投資その他の資産		
投資有価証券	6,055	5,890
長期貸付金	1	1
退職給付に係る資産	7,275	7,544
繰延税金資産	10,157	10,903
その他	14,251	14,582
貸倒引当金	△550	△539
投資その他の資産合計	37,192	38,382
固定資産合計	547,507	548,190
資産合計	620,929	636,037

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,257	8,369
短期借入金	45,853	60,987
1年以内償還社債	20,000	10,000
リース債務	736	760
未払法人税等	3,178	625
賞与引当金	2,474	907
その他の引当金	506	509
資産除去債務	172	363
その他	38,435	33,331
流動負債合計	118,614	115,854
固定負債		
社債	145,000	165,000
長期借入金	115,161	120,899
リース債務	14,034	12,990
再評価に係る繰延税金負債	23,225	23,225
退職給付に係る負債	19,838	19,469
長期預り敷金保証金	29,234	28,655
資産除去債務	2,931	2,865
その他	858	819
固定負債合計	350,283	373,925
負債合計	468,898	489,779
純資産の部		
株主資本		
資本金	38,803	38,803
資本剰余金	26,980	26,980
利益剰余金	87,011	81,143
自己株式	△341	△343
株主資本合計	152,454	146,584
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,066	2,026
土地再評価差額金	△395	△395
為替換算調整勘定	△17	△136
退職給付に係る調整累計額	△2,164	△1,907
その他の包括利益累計額合計	△511	△413
非支配株主持分	88	87
純資産合計	152,031	146,257
負債純資産合計	620,929	636,037

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
営業収益	204,398	168,018
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	129,281	127,468
販売費及び一般管理費	50,223	41,370
営業費合計	179,504	168,838
営業利益又は営業損失(△)	24,894	△820
営業外収益		
受取利息	3	4
受取配当金	161	155
受託工事事務費戻入	102	114
保険配当金	70	52
雇用調整助成金	—	441
雑収入	86	213
営業外収益合計	423	981
営業外費用		
支払利息	2,002	2,156
雑支出	323	202
営業外費用合計	2,325	2,358
経常利益又は経常損失(△)	22,992	△2,197
特別利益		
固定資産売却益	64	12
投資有価証券売却益	54	—
工事負担金等受入額	5,010	0
補助金	1,093	201
受取補償金	14	31
固定資産受贈益	—	61
雇用調整助成金	—	100
その他	26	0
特別利益合計	6,264	407
特別損失		
固定資産売却損	—	2
固定資産除却損	183	420
固定資産圧縮損	5,863	199
投資有価証券売却損	—	69
減損損失	—	125
店舗閉鎖損失	—	174
新型コロナウイルス感染症による損失	—	391
その他	6	3
特別損失合計	6,053	1,387
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	23,203	△3,177
法人税、住民税及び事業税	7,559	1,087
法人税等調整額	851	△844
法人税等合計	8,411	242
四半期純利益又は四半期純損失(△)	14,791	△3,420
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	36	△1
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	14,754	△3,418

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	14,791	△3,420
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△313	△40
為替換算調整勘定	△105	△118
退職給付に係る調整額	60	256
その他の包括利益合計	△357	97
四半期包括利益	14,433	△3,322
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	14,402	△3,320
非支配株主に係る四半期包括利益	31	△1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱いの適用)

当社及び国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りについて)

前連結会計年度末において、新型コロナウイルス感染症の影響を、「2020年度の上期中に収束し、業績は下期から回復に向かい、2021年度には例年並の需要が見込まれる」と仮定しておりましたが、その後の新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、収束時期は未だ予測することが出来ない状況であることから、「徐々に状況は改善するものの、当該状況による影響は当連結会計年度以後においても一定期間にわたり継続する」と仮定を変更し、固定資産の減損及び繰延税金資産の回収可能性の会計上の見積りを行っております。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響は不確定要素が多く、当社グループにおける経営環境への影響は、今後さまざまな要因によって事後的な結果と乖離が生じる可能性があります。

(四半期連結損益計算書関係)

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発出に伴う政府及び自治体からの休業要請等により、当社グループの一部施設において臨時休業いたしました。当該休業中に発生した固定費等(減価償却費等)については臨時性があると判断し、新型コロナウイルス感染症による損失として特別損失に計上しております。

## (セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)  
報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	ホテル業	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
営業収益								
(1) 外部顧客への営業収益	30,128	76,828	53,164	34,198	10,078	204,398	—	204,398
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	370	1	2,886	286	6,924	10,468	△10,468	—
計	30,499	76,830	56,050	34,485	17,002	214,867	△10,468	204,398
セグメント利益	6,249	1,108	13,170	3,479	857	24,864	29	24,894

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)  
報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	ホテル業	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
営業収益								
(1) 外部顧客への営業収益	22,393	77,754	48,096	9,492	10,281	168,018	—	168,018
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	438	0	2,867	263	6,893	10,464	△10,464	—
計	22,832	77,755	50,963	9,755	17,174	178,482	△10,464	168,018
セグメント利益又は損失(△)	△2,030	1,855	10,195	△11,984	1,194	△769	△51	△820

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。